

## 米加さけ・ます生産流通加工等現地事情調査

企画課情報係長 さとう 佐藤 恵久雄

1998年3月29日から4月4日にかけてカナダのブリティッシュ・コロンビア州（以下BC州）と米国アラスカ州において、さけ・ます類を中心とした水産物の生産、加工と流通事情に関する調査を行う機会を得ました。バンクーバー、ダッチハーバー、アンカレッジで連邦政府、州政府の水産関係者や民間水産団体との意見交換、水揚げ港、水産加工場、さけ・ますふ化場、小売り現場の視察などを行いました。ここでは増殖関係について得た情報を紹介します。

わが国の沿岸さけ・ます漁業は定置網漁法が主体で、産地市場でのせりでの価格決定されていますが、両州では移動漁法のまき網、刺網、曳縄で漁獲し、加工業者が個々の漁業者から直接買い付けています。政府は資源維持に必要な産卵親魚を河川にそ上させるため、魚種ごとに漁獲状況、そ上状況を監視し、操業可能な水域と時間を調整しています。

さけ・ます増殖については、ふ化場を使用して人工受精から人工ふ化、給餌飼育までの工程を経るわが国で一般的な人工ふ化放流も行われていますが（図1）、河畔に設置したふ化槽による無給餌放流（ストリームサイド・インキュベーション）や人工産卵床（スポーニング・チャンネル）を設けての自然産卵など、より人為管理部分が少ない人工ふ化放流も盛んです。また、魚道の整備、湖の施肥、河川の清掃など内水面環境の改善も明確にさけ・ます増殖事業として位置づけられ、増殖事業による回帰数にはこのような野生に近いものも含まれています。わが国においてはさけ・ます増殖とさけ・ます人工ふ化放流は同義語的に用いられる場合が少なくありませんが、北米と比較するときには、ふ化場での人工ふ化放流、それ以外のやや粗放的な人工ふ化放流、人工ふ化放流以外での増殖事業、そして野生産を区別しておく必要があるようです。

人工ふ化放流について地域的に見ると、ベニザケの大産地として有名なプリストル湾を含むアンカレッジより西の地域ではほとんど行われていませんが、アラスカ中央部から南東部にかけては34のふ化場があって（図2）、特にサケとカラフトマ



図1. バンクーバー市郊外のキャピラノふ化場



図2. カナダとアラスカ州の主なふ化場の位置

スで大きな成果を上げています。BC州の場合は25前後のふ化場がありますが、資源量の減少が続いており、人工ふ化放流よりも内水面環境の改善が急務と考えられています。

また、魚種によっても事情が異なり、サケとカラフトマスについてはふ化場からの人工ふ化放流が比較的盛んですが、ベニザケはスポーニング・チャンネルと湖の施肥を中心に増殖され、ギンザケ、マスノスケ、ニジマスは遊漁での利用を主目的にした幼魚放流が多いようでした。